

## 朝礼 校長講話（3月6日）

先週の金曜日に卒業式が行われ、2年生が1・2年生の在校生代表として式に参加してくれ、しっかりと送り出してくれました。式に参加しなかった1年生の皆さんに、まずそのことを報告します。

その式の中で、「送辞」というものがあります。「辞」というのは「言葉」という意味で、「送る言葉」のことです。小学校では「呼びかけ」という言い方で、みんなで長い文を区切って行うのが多いのですが、中学校ではそれを代表の子がします。今年は、2年生の加藤君が送辞を述べてくれました。その送辞で、在校生としてどんなことを言ったのか、2年生は聞いたと思いますが、1年生にも紹介したいと思います。

今日まで私たちは、ただひたすら、  
先輩方の背中を追いかけてきました。  
そんな私たちは、今、憧れだった先輩方から  
伝統のたすきを確かに受け取りました。  
たすきの重さをずっしりと感じながら、  
弥富中学校の顔として、誇りをもって、  
その役目を果たして生きたいと思います。

3年生の前で、このように力強く語ってくれました。もちろんそれは、来賓の方々や保護者の方々もしっかりと聞いてくださいました。3年生はさっそく今日から公立高校の入試で、自分の進路に向けてがんばっていますが、1・2年生の皆さんがこの送辞で言ったように、しっかりとこの弥富中学校を引っぱって行ってほしいと思います。

さっそく、今週は「小中交流会」というものがあります。これは、今年から始めたもので、来年1年生として入ってくる小学6年生に中学校に来てもらい、授業や部活動を見てもらおうというものです。1年生の皆さんは覚えているかもしれませんが、小学校の今頃は「中

学校ってどんなところだろう」と、とても不安だったと思います。そんな不安を少しでも軽くするために行います。「中学校の授業はこんな感じだよ」「部活動はこんなふうに行っているよ」というのを、ぜひ見せてあげてください。